

# Nara Women's University

## 開会の挨拶

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2008-01-28 キーワード (Ja): 『万葉集』 成立1200年記念, 挨拶, 開会, 奈良女子大学21世紀COEプログラム, 万葉集 キーワード (En): 作成者: 坂本,信幸, 清水,哲郎 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="http://hdl.handle.net/10935/191">http://hdl.handle.net/10935/191</a>

## 開会の挨拶

坂本 信幸 ただいまから奈良女子大学21世紀COEプログラム、『万葉集』成立1200年記念国際シンポジウム「古代日本の言語文化と若手研究者支援プログラム」を開催いたします。本日は大変な暑さのなか、皆様方には当シンポジウムにご来臨いただきまして誠にありがとうございます。厚く御礼申し上げます。

開催に先立ちまして、奈良女子大学を代表いたしまして奈良女子大学副学長清水哲郎の方からご挨拶を申し上げます。

清水 哲郎 ただいま紹介していただきました奈良女子大学企画・研究担当の副学長の清水と申します。本日は非常に残暑の厳しいなか、奈良女子大学21世紀COEプログラム、それから『万葉集』成立1200年記念の国際シンポジウムにかくもたくさんの方がご参加いただきまして、奈良女子大学として大変光榮に存じますとともに、心から御礼申し上げます。当初の予定では本学の久米学長が開会の挨拶をすることになっておりましたが、どうしても出席できない事情が生じたので、私が学長から開会の挨拶を預かってきておりますので、そのなかの一部を修正しながらご挨拶申し上げたいと思います。

「古代日本の言語文化」に関する国際シンポジウム、および若手研究者支援プログラムが国内外からの多くの優れた研究者のご参加の下に奈良女子大学で開催されることになりましたこと、奈良女子大学を代表して心から喜び、また歓迎させていただきます。この国際シンポジウムは昨年度から5年間計画で進めてきております本学の21世紀COEプログラム、名称「古代日本形成の特質解明の研究教育拠点」の活動の一環として実施するものであり、併せて『万葉集』の成立1200年を記念するものであります。

奈良女子大学は奈良という日本の古代国家が誕生した地に位置しております。この奈良には日本文化のルーツともいえる古代からの歴史、文化、生活、芸術、宗教などが今なお息づいております。本21世紀COEプログラムでは奈良の地にある本学の特性を十分に生かし、古代都市を中心テーマとし、さまざまな分野からの複合的な視点での古代日本形成に関わる研究を格段に進めることを目指しております。本学はアジア地域を中心にした学術研究交流を進めることを大学の目標の一つとしております。古代日本の形成にはアジア地域からのさまざまな影響も極めて大きいことから、この21世紀COEプログラムにおいては国際的な広がりをもった研究を進めることが不可欠です。その意味からも今回の国際シンポジウムは非常に重要な役割を果たすものと考えております。

ここで少し奈良女子大学についてご紹介申し上げたいと思います。本学は1908年（明治41年）に設立された奈良女子高等師範学校を前身とし、1949年に国立大学奈良女子大学として設置され、昨年にはご承知のとおり国立大学法人奈良女子大学となり、ほんの数年後

には設立から100年の時を刻もうとしている女子の最高学府の一つであります。現在、東京にあるお茶の水女子大学と共に国立の女子大学として、国内外で活躍・貢献できる女性人材、また研究者、あるいは高度専門職業人などの優れた女性リーダーの育成を目指しています。大学内には、文学部・理学部・生活環境学部の3学部と大学院人間文化研究科の1研究科がありまして、現在、学部と大学院を合わせて約2,750名の学生が在籍し、勉学やクラブ活動、また研究活動に励んでおります。

さて、すでにご存じだと思いますが、奈良は2010年に平城京遷都1300年の節目の年を迎えます。奈良女子大学もこの古代日本の中心地でありました平城京の外京であった場所に位置しております。日本文化の発祥の地ともいえるここ奈良で、古代日本の言語文化に関する国際シンポジウムが開催され、国際的な広がりをもつ多面的な視点からの活発な議論が展開され、古代日本の言語文化のみならず古代日本の文化全体、あるいはその国際的な観点からの位置づけに関する新たな知見が生み出されますことを期待して、簡単ですが開会のご挨拶とさせていただきます。どうもありがとうございました。

**坂本** 続きまして、本日と明日の両日にわたりまして基調講演者、ならびにコメンテーターとしてご出演いただきます先生方をご紹介します。先生方、檀上の方をお願いいたします。

それでは海外からお越しの先生方からシンポジウムの流れに添ってご紹介させていただきます。アメリカからご参加のコロンビア大学助教授のデヴィッド・ルーリー先生です。タイからご参加のチュラーロンコーン大学講師のチャワーリン・サウエッタナン先生です。カナダからご参加のプリティッシュコロンビア大学博士課程の鄧慶真先生です。韓国からご参加の忠南大学校教授の権五曄先生です。台湾からご参加の開南管理学院教授の北島徹先生です。

次に国内からお越しの先生方をご紹介します。北海道大学大学院教授の身崎壽先生です。京都大学大学院教授の内田賢徳先生です。筑波大学大学院教授の芳賀紀雄先生です。大阪市立大学大学院教授の毛利正守先生です。本学奈良女子大学教授の奥村悦三先生です。同じく奈良女子大学教授の松尾良樹先生です。そして本日総合司会を担当いたします私、坂本信幸です。よろしく願いいたします。

なお、本日ご参加いただく予定でした神野志隆光先生はご尊父のご逝去のために本日は告別式ということで、ご参加いただけなくなりました。謹んでお悔やみ申しあげたいと思います。

それでは先生方、お席にお着きくださいませ。